



JR西日本「福知山線脱線事故」から17年

JR東日本も他人事ではない！

2005年4月25日9時18分に発生したJR西日本「福知山線脱線事故」から17年が経過しました。乗客・運転士107名が亡くなり、562名が負傷した未曾有の大事故を決して風化させてはなりません。

鉄道は、乗客の「いのち」を預かり「安全に目的地まで送り届けること」が最大の使命です。私たち鉄道従事者は、事故を教訓に安全で安心して利用できる輸送サービスの提供に努めなくてはなりません。

みどりの窓口廃止など、
現場第一の声は？

現在のJR東日本の企業体質は……

JR西日本	✓ 大阪支社の経営方針では「稼ぐ」ことが第一とされた。 ✓ 4つのジンザイ（人財・人材・人在・人罪）に分ける「歪んだ社員管理」や「評価」を気にする風通しの良い職場風土ではなかった。 ✓ 懲罰的な日勤教育などが、社員への「心理的負荷」となった。
JR東日本	✓ 「本気（マジ）で稼ぐ」を掲げ、現場では「1円でも多く」と黒字化が声高に叫ばれている。 ✓ 1割の意欲ある社員・8割の普通の社員などと選別し、労働組合敵視、差別、不当労働行為が今も平然と行われている社員管理。 ✓ 評価を気にするあまり、業務上の「取扱い誤り」が増加し、事故・事象の連鎖が止まらない。

社員運用の効率のみが重視され、鉄道業における専門性を顧みず、「現場の声＝お客さまの声」を軽視した経営姿勢に対し、マスコミなどから指摘されています。

職場では「見習い養成中に指導担当や教導指定者がジョブローテーションという名で強制配置転換」という中途半端な人材育成が行われ、各線区のプロが育っていません。

福知山線脱線事故は「安全最優先の風土が構築できておらず、人命を預かる企業としての責任を果たしてなかった」ことが教訓でした。JR東日本もこの教訓を活かすべきです！